

〔 抑制と均衡の統治システム 〕

アメリカにおける三権分立制

建国の父たちは専制を許さない仕組みをつくり上げた。

首都大学東京 法学部
教授 梅川 健

実現しない大統領の政策

ドナルド・トランプ大統領は2016年の選挙中から南部国境における壁建設を訴えてきた。しかしながら、大統領肝いりの政策は2年以上にわたり棚ざらしの状態が続き、19年2月には壁建設を目的とする国家非常事態宣言が出されるに至った。

なぜ、アメリカでは大統領の政策が簡単には実現しないのだろうか。実は、大統領が実現を目指す政策が頓挫するということは、アメリカでは珍しくない。例えばバラク・オバマ大統領は選挙中からグアンタナモ収容所の閉鎖を訴えていたが、結局2期8年の任期中に実現できなかった。大統領の望む政策が実現しないという現象は、トランプ政権に限られたものではなく、近年どの政権にも共通して見ることができる。

2つの理由がある。1つは、三権分立制というアメリカ政治の構造的特徴である。もう1つは、政治を担うアクターが保守とリベラルに別れて対立するイデオロギー的分極化という政治状況である。

権力を分割する合衆国憲法

1787年に成立したアメリカ合衆国憲法は権力の分割を骨子としていた。政府の権能を立法・行政・司法に分け、相互に抑制させることによって専制を防ごうという仕組みである。合衆国憲法の第一条から第三条にかけて、議会、大統領、

裁判所の権限が示されるとともに、他の部門への抑制手段も書き込まれた。今日まで基本的な構造は変わっていない。

条文を読んでもみると、大統領は単独ではほぼ何もできないことに気づく。大統領は教書のかたちで国家が直面する課題について議会に伝えることはできる(例えば年頭教書演説)が、法案を提出することはできない。法案審議にも参加できない。議会を通過した法案に拒否権を行使することはできる。日本の内閣総理大臣と比較して、立法における役割は限定されている。

行政において大統領は自由かといえば、行政を主管する省庁の高官人事では、大統領の指名に上院の承認が必要とされる。大統領は法律の執行に責任を負うが、議会には法律の執行を担保する予算の編成権限がある。

外交こそ大統領が主たる役割を果たすことのできる領域だが、ここにも議会の抑制が効いている。大統領は他国と条約内容について交渉できるが、最終的には上院の承認が必要となる。戦争も大統領単独ではできない。大統領は最高司令官として指揮を執るものの、宣戦布告の権限は議会にある。

つまり、アメリカの建国の父たちは、大統領と議会が互いに協力するときのみ、政治的決定が可能になる統治構造を設計したのである。この仕組みでは決定には同意が必要となり時間がかかるが、建国の父たちは専制よりも望ましいものと考えた。